

令和6年度 江戸川区立葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○よく考える子ども ○最後までやりぬく子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ○心ゆたかな子ども ○健康な子ども 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師 保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や算数科の研究における中学校教員からの助言、小中合同の防災訓練の実施など小中連携の推進を図ることができた。 ・体育科の授業だけでなく、全校で取り組む活動を通して児童の体力向上に結び付いた。 ・tetoruでの保護者に向けた情報発信が定着した。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施し、基礎的学力の向上を図ること。 ・不登校対策支援シートの継続的な作成と、不登校児童を0にしていけるための具体的な改善策を考えること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後の補習教室 ○復習の積み重ね ○校内研究による教師の授業力向上 ○家庭学習強化週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京A-テスト(算数)の評価テスト正答率8割以上 ・低学年では全体の85%以上 ・中学年では全体の85%以上 ・高学年では全体の80%以上 ○全国学力・学習状況調査 ・国語科 全国平均以上 ・算数科 全国平均以上 	C		C	6年生が実施した全国学力・学習状況調査では全国平均を下回った。学力向上委員会では、2学期以降の学習の進め方について検討し、6年生担任においては夏季休業日中に分析し、2学期からの授業改善に向けて計画を立てた。	C	日常生活を絡めながら知識や技能を活用する力が身に付くとよいと思う。 近隣の小学校で全国平均を上回る学校から情報を得るといのもよいのかと思う。					
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ○確実な読書科の授業の遂行 ○図書館ボランティアや葛西図書館職員による読み語りやお話集会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間読書の本の冊数 ・低学年100冊以上 ・中学年90冊以上 ・高学年60冊以上 ○「調べる学習コンクール」への参加30人以上 	B		B	学校図書館が使えない時期があったが、各学年とも読書の時間を確保した。 調べる学習コンクールは4年生が学年で取り組んだ。	A	防災体験会の時に中学生が小学生に読み語りをしていた。今後も継続してもらえればと思う。読書は充実していると感じる。					
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○運動意欲や基礎体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科授業の充実 ○「葛小遊びタイム」の実施 ○体育的行事や取組 ○歯みがき指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力テストの結果 ・どの種目においても東京都の平均を上回る。 ○持久走記録会のタイムの向上 ○年度末の児童アンケートによる回答 ・体を動かすことが心地よいと肯定的に回答する児童85%以上 	C		B	体力テストの結果がまだ出ておらず、体育関係の行事は2学期後半からの実施が多いので評価は難しい。休み時間になると元気に校庭や屋内運動場で遊ぶ児童が多い。 歯みがき指導は来年度に向けて計画を立てている。	B	日々体を動かすことができているように感じた。運動が苦手な子へのアプローチをもっとしていくべきかとも思う。今後の活動に期待したい。					
教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○巡回指導員主導の研修会の実施 ○コーディネーターや特別支援専門員を中心とした特別支援教育の組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会の回数 ・年間3回実施 ○特別支援教室を退室する児童の数 ・年度内に5人 ○教職員へのアンケート ・特別支援教育が進んだと答える教職員が80%以上 	B		B	特別指導巡回指導教員を講師に迎えた研修会を9月上旬に実施した。様々な児童の立場に立って物事を捉える意識を磨いた。 特別支援教室を退級する児童はまだいないが、日々すすんで学習に取り組んでいる。	B	特別支援というワードがなかなかピンとはこないが、今の子どもたちには多くの支援が必要なのかと感じた。学校の先生だけでなく、専門的な知識をもった方が関わってくださっているのはとてもありがたい。					
不登校の対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの健全育成に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員による児童理解の充実 ○不登校児童分析シートの活用 ○組織的且つ確実ないじめへの対応 ○hyper-QUを活用した学級の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校児童の人数 ・年度末における不登校児童数を0に近づける。 ○いじめ案件の未解決数 ・年度末には未解決を0にする。 ○児童への年度末アンケート ・学校が楽しいと肯定的に回答する児童が90%以上 	B		A	不登校児童は2名である。担任だけでなく、SSWや関係機関と連携して今後の見直しを立てていく。 いじめの未解決案件は現在のところは0であるが、今後も児童の様子を見て、早期発見を心掛けていく。	A	長期休みが2学期の不登校につながってしまっていると思うので、夏休み中も何かの形で学校に登校できるとよいかと思う。					
学校（園）の実現	○自校（園）の取組の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なホームページの更新 ○年4回の土曜日の学校公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への学校評価アンケート ・「開かれた学校」「学校は情報を発信している」という項目において、肯定的な回答が95%以上 	B		B	毎日とはいかないが、ホームページを定期的に更新している。今後も児童の様子を発信していく。tetoru発信を常時化し、保護者へ確実に情報を発信する。	A	ホームページは頻りに更新されている。今後はPTAのホームページも修正や更新をしていきたい。					
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回の学校評議員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者評価の結果 ・年度末に学校関係者評価の内容に関して、肯定的な回答が85%以上 	C		B	学校評議員会でいただいたご意見をもち、今後の取組を改善したり、見直したりしていく。	A	学校評議員会では活発に意見が出ており、改善に取り組みされているのがよい。					
教育の展開	○小中連携教育の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携した教員の授業改善 ○中学生から小学生に教える活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童や教職員へのアンケート結果 ・小中連携を行うことで満足感を得たという肯定的な回答が80%以上 	C		B	外国語科の授業を中学校の英語科の教員と共に考え、実践した。小中で英語による「やりとり動画」を作成した。	B	併設校の良さを活かして、中学校との連携を多くしてもらいたい。教員だけでなく、児童と生徒との関りも。					
	○防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体験会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加児童の人数 ・50人以上の参加 ○実施後のアンケート結果 ・肯定的な回答が90%以上 	C		B	防災体験会が延期となった。参加児童は30人強ではあるが、志をもって取り組めるように支援をしていく。	A	毎年開催され、有意義なものとなっている。災害は皆に訪れるので、低学年も参加できたらよいと思う。					